

ホタル学校だより

ホタルシーズンにまた会おう！ ホタルの幼虫放流式を開催



美合小学校ホタル飼育部の皆さん



ゲンジボタルの幼虫

2018年3月24日、岡崎市ホタル学校にて毎年恒例のゲンジボタルの幼虫放流式が行われました。

まず、午前11時より校内で式典が執り行われ、主催者、来賓のあいさつの後、今年は美合小学校ホタル飼育部の皆さんに活動発表をしていただきました。

美合小学校には、全国でも珍しいホタル飼育部という部活動があり、「生田ホタル保存会」の皆さんの協力を得ながらゲンジボタルの幼虫飼育を始め、今年で40年目を迎えたそうです。

式典の後には、メインイベントであるゲンジボタルの幼虫の放流です。

鳥川ホタル保存会の皆さんと協力しながらホタル学校で育てたゲンジボタルの幼虫を、「無事成虫に成ってきれいな光の舞を見せてください。」という掛け声に合わせてそつと幼虫を川へ放しました。そして締めくくりは鳥川名物の「しし汁」の振る舞いが粉われました。独特の調理法で臭みがなくとてもおいしいと評判です。

幼虫は、3～4週間ほど川で過ごした後、雨の降る夜に一斉に上陸しますが、光りながら土手を登る光景は、まるで天の川の様です。土の中で1カ月ほどさなぎで過ごし、5月下旬頃から成虫となって、温かく湿った風がなく暗い夜には、美しく幻想的な光の舞が見られます。楽しみに！

ホタル学校歳時記（No.16） 昼夜逆転するホタル

普通ゲンジボタルは昼間に発光することはない（ちょっとした刺激を与えれば驚いて光るが）。だが学習により昼夜逆転させることで、昼間でも夜間と同様に発光させることができる。



ホタルをカゴに入れて、夜間に電灯をつけて明るくする。逆に昼間に暗くする必要があるがこれが大変で、外の光が入らないよう工夫が必要である。3日～4日繰り返すと、昼間にも光るようになる。

訓練後には水かけと栄養補給のはちみつのはちみつを忘れないように。また、観察に使用した後は川岸に逃がすこと。（鳥川をはじめとする額田地区のゲンジボタルは、市の天然記念物に指定されており、捕獲は禁止されています。）

（ホタル学校名誉校長・古田忠久）

ホタルクイズ

ゲンジボタルは成虫以外の段階でも光ることが知られています。

次のうち、光るものはどれか選んでください。

①卵

②幼虫

③さなぎ



新たな山歩きコースが完成！

わらべの小径・巡礼の道

これまで鳥川の山歩きコースに看板を整備してきた松本吉央さんと年金者里山ハイキングの会の皆さん。平成29年度もさらなるルートの調査と看板作成・設置を行い、新たに「わらべの小径」と「巡礼の道」が完成しました。

「わらべの小径」はホテル学校のすぐ南側にある尾根から登るコースで、昔鳥川の子どもたちがよく遊んでいた山であることに由来しています。



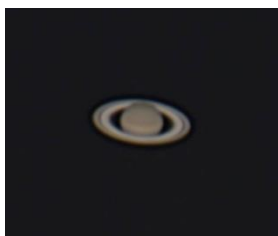
「巡礼の道」は音羽富士の東にある古坂峠から額堂山の西にある地蔵峠へと尾根伝いに歩くルートで、これが完成すると愛宕山～京ヶ峯～音羽富士～額堂山～水晶山と鳥川のすべての山がぐると一周できるようになります。「巡礼」の名称は、江戸時代に全国あちこちにお参りに行ったうめさん・つやさんという姉妹が鳥川に巡礼供養塔を建てた事にと由来しています。毎週多くの登山客が訪れる鳥川ホテルの里。新たなルートが完成したことでさらなる人気スポットとなっていくことでしょう。



ホテルの里の星空コラム

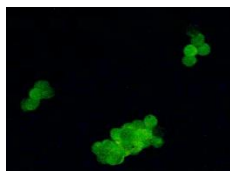
ホテルを育む鳥川の空環境は星もよく見えます。今から400年ほど前、イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイは世界で初めて望遠鏡を空に向け天体観測をしました。月面が平坦でないこと、金星が月と同じように満ち欠けすること、木星の周りを廻っている星があること、などの観測結果から地動説を確信しました。

ホテル学校では、春、夏、秋、冬に星空観望会を行っています。天体望遠鏡を校庭に設置して月面のクレーターや惑星の表面の模様、星雲、星団など、普段は見られない星の姿を見ていただき、当時ガリレオが見たであろう星空の感動を体験していただきたいと思います。開催日は市政だよりに掲載しますのでご確認の上お申し込みください。



ホテルクイズの解説

**答え：①卵 ②幼虫 ③さなぎ
すべて光る！**



卵は肉眼では分かりませんが、カメラで撮影するとぼんやりと発光しています。



そして幼虫が4月下旬～5月上旬に上陸する際、ゆっくり光を放ちながら登ってくる様子が観察できます。



さなぎは普通地中にあるので目にすることはありませんが、揺れたりするとおしりの部分が光ります。